

城のある都市復活

福岡城だより

2012. 10
OCTOBER
No. 35



福岡城内裏御門付近の景

福岡流おもてなし

福岡市民の会理事

久留 百合子
(消費生活アドバイザー)



現在福岡市では、福岡市総合計画審議会と福岡市自立分権型行政改革有識者会議という福岡市のこれからを決める重要な会議が行われています。どちらも

も、9月～10月には中間答申が出され、パブリックコメントを取り、さらに内容を練っていく段階に入っています。

私は、5月から始まった後者の行財政改革の委員をしている関係から、特に今年は我が街である福岡市のことを考える機会を多くもつことになりました。

総合計画と行財政改革は車の両輪。福岡市の未来を描きながら、改革すべきところは改革していく。しかしこれまでのように形だけのパブリックコメント収集ではなく、市民一人一人が係わって作り上げて行く気運が盛り上がっているように感じています。

福岡市は世界で最も住みやすい都市の12位（イギリスグローバルバス情報誌モノクルによる）に選ばれるほど住みやすい都市だと言われています。自然が身近で食べ物がおいしく、交通の便が良く適度に都会……などが好評価の理由のようです。

他方、福岡のソフト面はどうでしょうか。安全な街でしょうか、文化度は？交通マナーはどうでしょうか、他から来られた方々におもてなしの心で接しているでしょうか。

これからは、都市機能の充実も重要ですが、それ以上に市民が福岡に誇りをもち、福岡のことが語れる「おもてなしの心」が大事なのではないのでしょうか。

そのような意味でも「鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会」の活動には、これから福岡をアピールしていく上でも大いに期待するところです。

「新しい公共・福岡城・鴻臚館の将来に向けた市民参加プロジェクト」2年目がスタート！

福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会 会長 石井 幸孝

◆今、なぜ「新しい公共」なのかー福岡城の「樹木」と「石垣」のお話を例にとりてー

国家的文化財であり、市民と地域の貴重な財産、一等地にある福岡城・鴻臚館をもっと活用して、地域の発展に繋げる時がきました。

国の史跡に指定されて50年以上が経ちました。セントラルパーク構想はじめ、幾たびかの構想計画が福岡市、同教育委員会で作られました。復元整備という点では不審火にあつた下ノ橋御門の復旧程度に過ぎません。では、現状のまま維持されてきたかという、**それでもいいのが樹木**です。2、3年は現状維持のように見えても、50年経つと石垣を覆う密林のようになってしましました。でも、見方を変えようと、大都会の都心に出現した緑のオアシスとも言えます。（陸軍管轄時代の鳥瞰図や写真と見比べるとよく解ります）

山陽新幹線の開業から35年以上経ち、博多が途中駅になり、全国の観光客が博多を素通りして、中九州や南九州に向かっています。福岡で降りてもらおう観光客を増やしたいものです。外国からの大型クルーズ船のお客様にも福岡観光をしてみたいものです。それには全国の皆さんが、「**福岡といえは〇〇がある**」と解りやすく覚えて貰える**ランドマーク**が必要ですが、福岡城・鴻臚館こそ最も有力な候補です。

こんな時に「**新しい公共**」（4年前からで、当初は「新たな公」と呼ばれていた）が国の方針として打ち出されました。従来は、市民は行政の一元的な計画に依存していましたが、これでは多様なニーズに立ち行かなくなってきたからです。さきほどの**史跡福岡城の樹木の話**です。（石垣を守るため）「木を切れ」（Aさん）、（緑を守るため）「木を切るな」（Bさん）、どちらも市民の真摯な意見です。「どちらも全部切れ」「一本も切らない」と言っているわけではないでしょう。でも、AさんとBさんが話合って答えを出そうとしたことがあるでしょうか。これまでは、Aさん、Bさんの意見が、直接・間接に、個別に

違う責任箇所に行くと、どちらも結論が出しにくく、また構想委員会等でも抽象的な考え方の域を出ません。その結果、樹木のほうも現状維持で50年が経って前述のようなことになりました。これでは、行政を悩ませるだけで、市民も無責任といえるかもしれせん。両意見の市民が互いに話合っ、多年の難問に解決のきっかけをつくりたいのです。そういう場作りが「新しい公共」であります。

今年度は市長の英断もあって、**経済・観光文化が一体化する組織変更**も行われ、福岡城・鴻臚館の将来に向けての前進の大きなチャンスがきました。

今年度の「新しい公共」では、重要テーマとして「**ランドデザイン**」をつくり、実行することを取り上げました。まともなことだけが目的ではありません。それをつくる**プロセスが市民とともにあること**です。さらに市民の意見で常に生き生きと変貌しつつ、実行されることが重要です。ランドデザインは作成途中から**市民の皆さんやトップにも見てもらい、参画してもらい、実行者になっ**てほしいのです。ランドデザインは市民と行政が共有しつつ、協働していくものです。

「新しい公共」は、行政にとっても市民にとっても、従来にない考え方ですので、とまどいがあるかもしれません。そのため、国も**モデル支援事業**として予算を組んでくれました。「新しい公共」「福岡城・鴻臚館の将来に向けた市民参加プロジェクト」を成功させるための具体策を、委員・関係者は勿論のこと、市民の皆さんが考え、提案していただきたいのです。われわれも国民の税金からいただいた、2ヶ年間にわたる支援金を無駄にすることは許されたいです。

◆平成24年度の具体的な活動

7月から、平成24年度、**二年目のモデル事業**がスタートしました。毎月開催の実行委員会と、「企画分科会」「まち歩き分科会」「まちづくり分科会」「フォーラム分科会」が精力的に検討を始めました。

「**企画分科会**」ではこの市民参加プロジェクトの「ランドデザイン」をまとめ実行

していくリード役が大きな役割です。「ランドデザイン」とは単なる「ビジョンづくり」ではなく、それを実行する課題や問題点もはつきりさせて、関係者が取り組むことを示します。「ランドデザイン」は検討途中から、市民に開示して意見を集約していきます。2ヶ年間のモデル事業は、平成25年度以降もプロジェクトの「実行委員会」を継続させることを前提に、国からの支援金を頂いているわけですから、25年度以降の進め方も検討します。

「**市民がやれることに参加する**」「**市民が答えを出すことに参加する**」「**市民が盛り上がりをつくることに参加する**」ことで、新しい取組みが期待されているのです。実行委員会には行政・団体・企業・NPOが参加しており、そのような取組みを協働提案し、支援もします。勿論、行政なども独自に計画を推進することがあるわけで、「ランドデザイン」とは必ずしも一致しないことがあるのも当然で、新時代のあり方である「新しい公共」の正しい理解が関係者にとつとも大切です。

「**まち歩き分科会**」では、「お城めぐり」を年間開催するほか、「城下町まち歩き」や中身の濃い「特定テーマお城ガイド」を進めることになっています。また「ボランティアガイド」のシステム化も進めます。

「**まちづくり分科会**」では福岡城周辺のまちづくり、特に福岡城・鴻臚館を活かしたまちづくりが主題で、「福岡城下まちづくり協議会」のような地域活動がねらいで、まず手始めに市民参加の「福岡城内清掃活動」からはじめ、お城に親しむ地域の連帯を期待します。

「**フォーラム分科会**」では「市民フォーラム」を開催して、福岡城・鴻臚館を大勢の幅広い市民に知って貰い、「福岡城・鴻臚館を福岡のランドマークに」をスローガンに、市民参加の活動展開のきっかけにし、「ランドデザイン」の意見交換の場などにもします。また「NHK大河ドラマ」誘致を姫路や中津とも連携してアピールします。

さらに年度後半には「**市民大討論会**」を開催して、「大濠公園」「舞鶴公園」を大きく捉えた「**福岡城公園**」のランドマーク化の起爆剤にしたいのです。国内・国際観光の飛躍につなげ、この都心一等地の「福岡城・鴻臚館」が「勿体ない」から一躍「**貴重**」な存在になることを期待します。

「新しい公共」方式での「福岡城・鴻臚館」活性化取り組みは、多年の難問に**市民目線**で規則・慣例の枠を超えた**大胆な答え**が出せる効果が期待されます。政府の方針にもあるように、そのような市民感覚を前面に出すために小回りの利く**NPO等の強化も**テーマになっています。



陸軍時代の城内風景…練兵場から多聞櫓南角櫓方面を見たもの（射撃訓練の板で櫓が半分隠れているが、木が少なくよく見える）（福岡城 List より）



ほぼ同じ方向の現在…多聞櫓は全く見えない。（練兵場はバス通りと駐車場になっている）



近づくしてみると、多聞櫓南角櫓の現況

「福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会」の委員・監事

平成24年7月1日現在（50音順・敬称略）

会長	委員	石井 幸孝	(NPO 法人 鴻臚館・福岡城 歴史・観光・市民の会)
副会長	委員	磯村 正人	(西日本鉄道株式会社)
	委員	伊藤 裕司	(福岡市経済観光文化局観光コンベンション部)
	委員	大谷雄一郎	(福岡市住宅都市局みどりのまち推進部)
	委員	岡嶋 洋一	((公財)福岡観光コンベンションビューロー)
	委員	岡部 崇	((社)福岡青年会議所)
	委員	濱田 史郎	(九州電力(株))
	委員	藤尾 浩	(福岡市経済観光文化局文化財部)
	委員	松本 法雄	((公財)福岡アジア都市研究所)
	委員	右田 喜章	((株)ホークスタウン)
	委員	三角 薫	(福岡商工会議所)
	監事	吉田 恵子	(福岡市中央区役所)
	監事	田中 寛治	(田中公認会計士事務所)
	監事	寺崎 禎一	((株)福岡銀行)

福岡城探訪

黒田家菩提寺

「南岳山 東長寺」



博多駅から真つすぐ伸びる大博大通りの六百^{メートル}先の東側に博多祇園山笠で二番目の清道が建つ東長寺がある。このお寺は我々が大切に頑張っている福岡城に大変な結びつきがある。

その一つは、日本でここしかない跡地として発掘中である「鴻臚館」とのゆかりがある遣唐船によって唐に渡った空海（弘法大師）が長い修行の結果、再び博多に帰り、学んだ仏教の教義を日本列島の東へ長く伝える様にと真言宗の行を行った。日本で一番古い霊場である。二つ目は黒田藩の二代目藩主忠之、三代目藩主光之に、八代目治高の大きな墓地

が境内の一面に祀られている。特に二代目忠之のお墓は五輪塔の形では日本で二番目に大きなお墓だと云われている。その他東長寺では別格本山にふさわしく日本一と言われる木造の福岡大仏に国宝の「千手観音菩薩」や六角堂の文化財等弘法大師建立のお寺として千二百年間の歴史を語る境内に昨年は純木造総檜造りで高さ二六^{メートル}の美しい姿を加えた五重の塔が黒田家の歴代藩主の墓地の前に落慶した。九州八十八か所の第一の霊場だし三十六不動尊めぐりでは結願場として位置づけられている名刹である。



「浴衣でてくくお城めぐり」

福岡城むかし探訪館

福岡城むかし探訪館では、8月25日に浴衣姿で福岡城内を散策するイベントを開催いたしました。

浴衣や甚平姿で参加した約50人のうち、半数以上は外国人留学生で、グループごとにクイズラリーを楽しみながら、お城をひと回りました。

また柳生新影流の解説と演武を観賞した後、アメリカ・デンマーク・ドイツ等の留学生が、実際に木刀を手にしたり、刀の基本的な所作を学んだりと日本文化に触れるコーナーもあり貴重な体験となったようです。

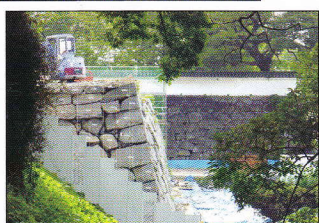
その後は、クイズの答え合わせや歓談をするなど国際交流も行われ、参加者の親睦を深める楽しい時間となりました。



福岡城上の橋 石垣修復工事始まる！

福岡城には三カ所の城内に這入る橋が架かっていました。そのひとつ、明治通りに面した福岡高等裁判所の横に旧平和台野球場に向かう橋がありました。そこを、お江戸に近いので「上の橋」。(伝)汐見橋が在るところを遠いので「下の橋」と称していました。

この上の橋の御門を護っていた石垣が痛み、この7月25日より本格的な修復工事に入りました。築城400年余り大きな城壁、石垣の崩れはなかったお城と自負していましたが、先の「福岡・西方沖地震」の折りに丁度警固活断層の真上に当たったため福岡城上の橋石垣は大きなダメージを受け、一部通行に危険な箇所や、永年の樹木に根が大きく張り出し、石垣の曲線美が壊れ危険であるので、福岡市では文化財部整備推進課の手で修復工事に着手しました。完成は26年3月の予定です。人生生涯の中で石垣修復の現場は中々見る機会はありません。市側は「近々修復現場が見られるように検討したい」と言っています。



会員からのよもやま話

福岡城跡に「不朽の命を」

城跡はやはり公園であると思う。公園には物語が不可欠。我々はなぜ城跡を訪れるのか。そこに歴史の痕跡があるから。往時を空想し、人それぞれ脳裏にその情景を描きロマンに浸れる時をすごす。そこには本物の世界があつたほうがよい。しかしそれだけでは、何か足りない。ロマンを掻き立てる契機となるものが必要に思う。何度訪れてもいつも新鮮で楽しく、わくわくする発見があり、居心地のよい時を過ごせる場所。そこに吹く風、木立のざわめき、溢れる光。四季を通じて季節感溢れる体験ができる場所。城跡という変化に富んだ人工物を陳腐な箱庭ではなく、幅広い来訪者に再訪を促す仕掛けをデザインする。その一つとして、「森の城公園」。都会のオアシス。広大な木々のデザインができる残された唯一の場所である。往時の正確な復元だけでは、そんなに魅力はない。未来に向かって息づく資産を実現してはいかだろうか。そこに本物の城郭建築がパビリヨンのごとく我々を迎えてくれる。そして物語が生まれるとよい。

そのような城跡公園が国内にもあるのではない。機会があれば、それらを紹介し、福岡城に命を吹き込みたいと願う。

(会員 室川 康男)

第三回市民フォーラム

福岡城・鴻臚館を

観光都市福岡のランドマークに

特別講演

お城のある風景 福岡城を熱く語っていただきます。



小和田哲男先生
「黒田如水と福岡城」



春風亭昇太郎先生
「待ってましたっ
お城の魅力」

日時 十一月一日 (木曜日)
十四時～十七時

(開演十三時三〇分)

場所 福岡市役所 十五階講堂
定員 四〇〇名 入場無料

参加申し込みは、電話・ファックス・メール
でお願いします。

(定員を超えて、ご参加いただけない場合
のみ返信いたします)

事務局 NPO法人鴻臚館・福岡城歴史・
観光・市民の会

TEL 092(716)8238

FAX 092(716)8254

E-mail: info@fukuoka=oshio.com

第一回「福岡城内クリーン アップ作戦」開催

9月8日(土)の9時、曇り空の中、福岡城むかし探訪館前に100名近くの市民の方々が集まりました。

福岡城内を5つのコースに分けゴミを拾って廻ります。頻繁に清掃車が入っているせいか、きれいな城内でしたが大きなゴミ袋2個のゴミが集まりました。

清掃後は、むかし探訪館の中で福岡城の模型を見ながら、岡部事務局長の話に皆さん熱心に聞き入っていました。

終了近くに降り出した雨の中での清掃活動でしたが、参加者の良かった。また次回も来ますの声が多いこと、もっと広報して欲しい、福岡城でイベントをして下さいなどの意見もいただきました。

福岡城を見て、知って考えていただくための第一歩としてスタートした清掃活動、今後多くの市民の方々の参加をお待ちしています。



第二回：十月二十一日(日曜日)
第三回：十二月九日(日曜日)
時間 午前九時～十時
福岡城むかし探訪館前集合です。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

新規会員名簿 平成24年9月30日現在

一般会員(個人)

稲富隆之
橋口トミ
讚井 眸
清長久志

一般会員(団体)

播磨の黒田武士
顕彰会

城下町の今・昔

古地図・現代地図を片手に
ガイドと一緒に、城下町を歩いてみませんか。
日時 11月18日(日) 十時～十二時三十分
12月16日(日) 十時～十二時三十分

集合場所 日本銀行前
参加費 五〇〇円
定員 15名

お問い合わせ先
(左記)

編集後記

福岡市や経済界も少しずつ福岡城に目を向け始めています。新しい公共が二年目を迎え、事務局も清掃活動やフォーラムを通して、市民の皆さんに福岡城を知って一緒に将来を考えていけることを願っています。今後ともご支援お願いいたします。

編集・発行 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル7階
TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254
HPアドレス <http://fukuokajokorokan.nngo.jp/>
E-mail fukuokajo@tos.bbq.jp
[デザイン・印刷] 城島印刷株式会社

福岡城市民の会

検索

